



学校評価特集
令和2年2月
京都市立柏野小学校
校長 福村 智子

第2回 学校評価へのご協力ありがとうございました

2学期の終わりに、第2回の学校評価を行いました。皆様からの評価とご意見を受け、教職員の自己評価の結果も含め、ここまでの課題と改善策について学校運営協議会の方も交えて話し合いました。その中から、ぜひ一緒に考えたい点についてお知らせします。

なお、保護者の方々への評価票は児童数で配布し、回収率は**81%**でした。ご協力いただきありがとうございました。児童・教職員も、それぞれに応じた項目で学校評価を実施しています。また、学校運営協議会の企画推進委員の皆様にも評価をお願いしています。

◎…よくあてはまる ○…どちらかといえばあてはまる △…どちらかといえばあてはまらない ×…あてはまらない
「◎」と「○」という評価結果の項目を、「達成している」項目と考えています。

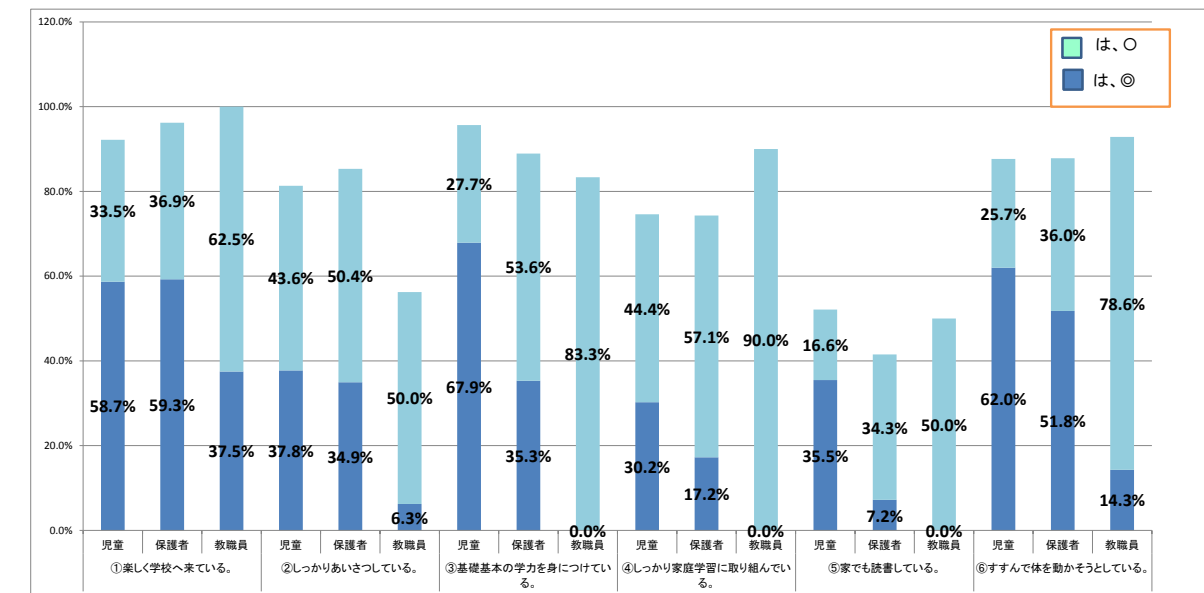
◇保護者 の方々からの評価結果

保護者			◎+○%	前期7月 ◎+○%
学校の取り組みについて	1	学校は、教育方針や取組を学校だよりや HP、懇談会等の機会にわかりやすく伝えている。	98%	97%
	2	学校は、一人一人の子どもを大切にされた学校づくりに取り組んでいる。	97%	98%
	3	学校は、様々な取組や行事を通して、家庭・地域と連携し、子どもの教育を進めている。	98%	96%
	4	教職員が熱意をもって教育を進めていることが保護者に伝わっている。	96%	95%
	5	学習の内容や進度を懇談会や学年・学級通信等によってよく知ることができる。	97%	97%
	6	子どものことについて学校に気軽に相談できる。	91%	94%
	7	教職員は、保護者や訪問者などにていねいに対応している。	98%	97%
	8	学校は、「柏野小学校いじめ防止基本方針」のもと、子どもが安心して通える取組をしている。	94%	90%
子どもについて	9	子どもは、楽しく学校へ行っている。	96%	99%
	10	子どもは、しっかりとあいさつができています。	85%	87%
	11	子どもは、学習内容が理解でき、基礎的な学力が身についている。	89%	91%
	12	子どもは、宿題など家庭学習を決められた時間(およそ 15 分×学年)取り組んでいる。	74%	72%
	13	子どもは、家でも毎日 15 分くらいは読書している。	42%	28%
	14	子どもは、日頃から体を動かすことをいとわない。(スポーツや外遊びを含む)	88%	91%
家庭で	15	家庭では、早寝早起き、持ち物の用意など基本的な生活習慣が身に付くようにしている。	93%	92%
	16	家庭では、子どもの話を受けとめ聞くようにしている。	99.5%	98%

◇「子どもたちのようす」について（代表的な6項目の結果を比較）

この6項目は、子ども・保護者・教職員の評価に 共通する内容の項目です。

評価項目の主旨	児童		保護者		教職員	
	◎+○ %	前期	◎+○ %	前期	◎+○ %	前期
①楽しく学校へ来ている。	92%	94%	96%	98%	100%	100%
②しっかりあいさつしている。	81%	85%	85%	91%	56%	67%
③基礎基本の学力を身につけている。	96%	98%	89%	88%	83%	67%
④しっかり家庭学習に取り組んでいる。	75%	65%	74%	79%	90%	71%
⑤家でも読書している。	52%	48%	42%	33%	50%	13%
⑥すすんで体を動かそうとしている。	88%	85%	93%	89%	93%	100%

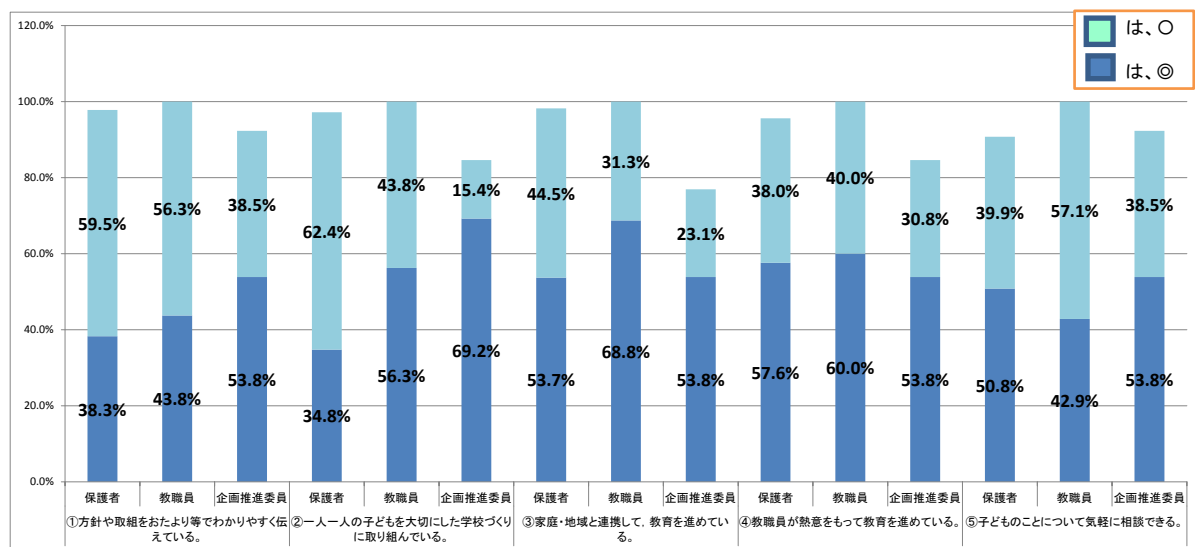


※四捨五入しているためにグラフの○と◎をたしても上の表と同じにならない場合があります。

◇「学校の取組」について（代表的な5項目の結果を比較）

この5項目は、保護者・教職員・企画推進委員の評価に 共通する内容の項目です。

評価項目の主旨	保護者		教職員		企画推進委員	
	◎+○ %	前期	◎+○ %	前期	◎+○ %	前期
①方針や取組をおたより等でわかりやすく伝えている。	98%	100%	100%	100%	92%	95%
②一人一人の子どもを大切にされた学校づくりに取り組んでいる。	97%	99%	100%	100%	85%	95%
③家庭・地域と連携して、教育を進めている。	98%	99%	100%	100%	77%	95%
④教職員が熱意をもって教育を進めている。	96%	100%	100%	100%	85%	95%
⑤子どものことについて気軽に相談できる。	91%	96%	100%	100%	92%	95%



※四捨五入しているためにグラフの○と◎をたしても上の表と同じにならない場合があります。

▼「楽しく学校へ来ている」

子どもの達成率が92%で、教職員の100%と前期よりもずれがあります。目に見える現象だけで捉えるのではなく、子どもたち全員が、「みんなと過ごすのが楽しい、学習が楽しい、学校生活が楽しい」と感じられる学校を目指し、子どものおもいにしっかり寄り添い、ずれを解決できるように全教職員が協力してきめ細かく取り組みます。

▼「家庭・地域と連携して、教育を進めている」

今回、企画推進委員より厳しいご指摘をいただきました。教職員は自分たちなりに懸命に取り組んでいますが、それは自分よがりにならずに相手に伝わる取組でないと意味がありません。

中でも大きかったのが、家庭・地域との連携（77%）です。「子どものことについて気軽に相談できる」という項目でも、前期に比べて達成率が落ちています。子どもは家庭だけとか学校だけとかでは育ちません。地域も含めた三者が、子どもを自立させていくために何をすべきかを一緒に考え、声を掛け合って、共に関わっていくことの大切さを、私たち教職員はもう一度肝に銘じる必要があると考えます。教職員からの働きかけや発信をより工夫していきたいと思います。

▼「しっかりあいさつをしている」

子どもの達成率は81%、保護者は85%でしたが、教職員は56%、企画推進委員が62%（前期75%）と、いずれも前期評価よりも落ちています。これは、先の家庭・地域との連携とも大きく関わっていると考えます。色々な立場から学校教育に関わって下さっている方々を、教職員も保護者も子どもも、どれだけ知っているのでしょうか。どれだけ、普段から声を掛け合っているのでしょうか。教職員自らも、子どもだけでなく誰に対しても進んで声を掛けていき、ご家庭でも家庭内での声の掛け合い、関わりもふり返っていただき、大人自らの姿を見せていきたいと思います。

▼「基礎基本の学力を身につけている」▼「しっかり家庭学習に取り組んでいる」

子どもたちには、「先生と一緒にする勉強はよくわかりますか?」という質問文で、学習の達成感・

成就感（わかる楽しさ）をたずねています。子どもたちの達成率は96%、保護者の方は89%です。

教職員は83%でしたが、前期より16%も上がっています。

学校での学習と大きくつながる家庭学習では、子どもたちは75%、保護者74%、教職員90%（前期71%）という結果が出ました。家庭学習では宿題だけでなく、計画的・自主的な学習ができるようになることを目指しています。そのためには、学校での学習の取組方が自主的な学習につながる事が大切です。集団学習の中でも、教員が一人一人に合った先を見据え、子どもの得意なところを伸ばしたり、苦手なことを克服したりすることにつなげていけるよう取り組んでいます。学校からの宿題（課題）だけでなく、子どもの得意分野や興味関心をどのように主体的な行動につなげていくことができるのか、学校での学習内容を見ながら、家庭での学習の内容や量・時間をお子たちと一緒に考えて進めて頂き、家庭学習の習慣化を図りたいと思います。

同時に、習慣化を図るためには生活リズムが安定していることが大事です。学校でも生活リズム調べに取り組んでいます。ご家庭でも今一度お子さんとふり返ってもらえたらと思います。

▼「家でも15分くらいは読書している」

前期は、大変低い達成率でしたが、後期は三者とも少しではありますが上がっています。学校では、12月の読書週間で、図書委員会が中心になって子どもたちが本を楽しめる取組をしたり、学校司書と連携を図り図書室での本の紹介をしたり、朝の帯時間での読書の時間を設けたりなどの取組をしていますが、より子どもたちの気持ちが揺さぶられるような働きかけを教職員でアイデアを出し合って取り組もうと思っています。ご家庭でも、一緒に読む、得た情報を共有するなど、読書が目的になるのではなく、読書を通して家庭での会話が深まっていくような時間を作ってほしいと思います。

▽その他 子どもたちの評価 から

「友だちからされたことで、いやな思いをしていますか」（87%）と「先生に困ったことを話すことができますか」（76%）という項目については、引き続き、子どものおもいに寄り添った関わりが必要だと考えています。学校では「教育相談週間」を設け子どもたち一人一人と深く話し合えるように取り組んでいます。また、道徳の時間をはじめとする全教育活動を通して、子ども自身が相手の気持ちを考えて行動できるように指導していきます。そして、一人一人の子どもたちが学級の中に自分の居場所があり、安心して学校生活を送ることができるように、担任だけでなく全教職員が共通理解をしながら関わっていけるように教職員間の連携も強めていきます。



学校運営協議会理事会でも、学校と家庭・地域の連携の重要性が大きく問われました。連携は、どこかだけが頑張るのではなく、子どもを中心に三者がしっかりと手を取り合い、共通理解し、同じ方向を向いて関わっていくことが大切です。地域は、学校や保護者の頑張りを後方支援していける役目をしっかり担っていききたいという励まされるお言葉をいただきました。又、まずは家庭から、それを学校と地域で見守り育てていきたいというご意見もいただきました。それぞれの立場を自ら振り返りながら、これからも柏野の子どもたちと関わり続けたいと思います。